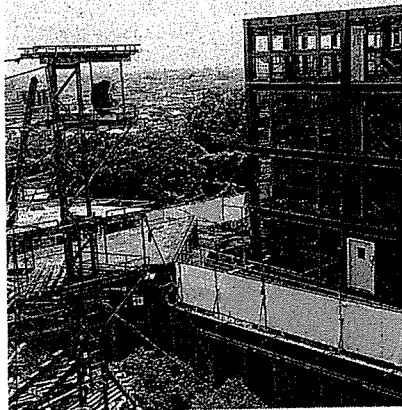


人間の心は不思議だ。喜怒哀楽や好悪、羨望、嫉妬……様々な感情の起伏がある。他者の心を読み取り、ウソをついたり、利他的な行動を取ったりする。心はなぜ、こんな動きをするのだろうか。心理学や認知科学、脳科学、社会科学などの分野の研究機関が連携し、人の心に迫る総合的な探究が2011年度から本格的に始まっている。

心の明日を築く

5/24日経 (29)

心の先端研究プロジェクト



野外運動場に隣接して建設中の大型飼育ケージ。左のタワーにはチンパンジーの姿が



京大霊長類研究所

「野生のチンパンジーは群れが小グループに分かれて暮らす。野生により近い環境にすることで、従来できなかった行動が現れ、様々な実験も

ツチパネルで課題をこなすと報酬のおやつが与えられるブースがあり、モニター画面と顔認証システムで個別の行動が把握できる。これまではブースにチンパンジーを呼び、人間が課題を設定して実験していたが、今後はチンパンジーがいつでも自由にきて課題に挑める。2つ並んだブースも設置し、模倣や同調といった行動

日本にはいないチンパンジー属のボノボが来年1月にも来る予定だ。チンパンジーは父系社会で道具を使い、時に群れの間で大きな争いが起きる。一方、ボノボの社会は雌が優位で平和共存的。ただ、道具はほとんど使わない。人類と共通の祖先を持ちヒト科に属するチンパンジーとの比較で進化を探ってきた研究に、ボノボが加わることで、人間の知性や心の新たな側面が解明できる可能性がある。

「他者理解」の進化探る

中心になっているのは京大。霊長類の知性や心を探る研究で世界をリードしてきた霊長類研究所(愛知県犬山市)で、この巨大ケージ2棟が完成、今年度3棟目ができ、互いに行き来できる。完成後、群れほどのように分かれて行動するの

可能になる」。心の先端研究プロジェクトの仕掛け人でもある前所長、松沢哲郎は期待する。完成後、群れほどのように分かれて行動するの

京大は学内組織として、霊長類研究所のほか、文学や教育、医学などに文学や教育、医学などある。人間の本性を探る研究ともいえるこの事業は、現代文明や社会を見つめ直す契機になるかもしれない。敬称略

堀田昇吾